

保育所へ新米60キロ

とんぼの会 給食用に寄贈

30.12.1
702号

【滝川】減農薬・減

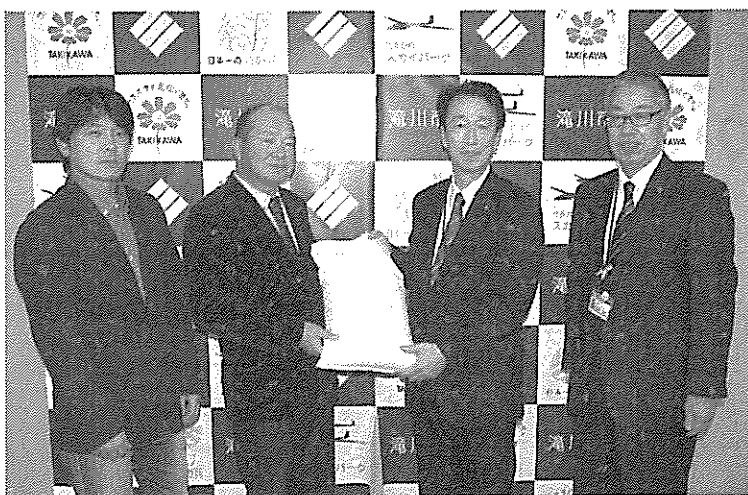
れる。

化学肥料にこだわった米づくりに取り組んでいる生産者グループ「とんぼの会」(平澤一彦会長)が11月28日、市内の保育所へ新米60キを寄贈した。写真Ⅱ。寄贈された新米は保育所の給食で提供さ

環境に優しく、持続可能な農業を目標に活動しているとんぼの会。生活クラブ生活協同組合の依頼を受け、安全安心な「とんぼ米」を栽培している。この日、平澤会長と埴淵義和副会長らが来

市。平澤会長は「6月の低温、7月はじめの大雨などの悪い影響が出た。このあたりの収量は、まだ作況指数ほど落ちていないが、タニパク値が高い傾向。ことしは米も畑作も悪かった年」と作柄を説明した。

新米の寄贈を受けた前田康吉滝川市長は、「ことしも保育所にいただきありがとうございます



います。子どもたちも喜んでくれるでしょう。来年は豊作になってくれれば」と話していた。【丸岡宣久】

お世話になった 人を招き収穫祭

滝川中央保育所

30.12.26 7:25 昭和

【滝川】滝川中央保
育所は21日、収穫祭を
同所で開催し、お世話
になったとんぼの会と
に歌やお遊戯を披露し

滝川中央ライオンスク
ラブの関係者を招待し
た。子どもたちがお礼

た「写真」。

とんぼの会はおいし
い新米を寄贈。滝川中
央ライオンスクラブは
枝豆やジャガイモをプ
レゼントしている。
収穫祭では子どもた



ちが「おうちで食べて
おいしかった」「いっば
い食べて元気に遊びま
す」とお礼を述べ、各団
体の代表者へ礼状を手
渡した。引き続き、お遊

戯や歌を披露したほ
か、参加者との会食を
楽しんだ。

【丸岡宣久】

「私の子育てこれでした。自身も息子2人を育
いのかな」。滝川市保健センターに昨年開設され
た相談室「たきかわつこ
ルーム」で育児の相談に
乗る内田敏恵さん(61)の
元に、母親からこうした
声が寄せられる。内田さ
んは「インターネットな
どで得られる情報が増
え、情報の取捨選択に悩
む親は多い」と言う。

「母さん」の言葉 支えに

31.1.19
2014

人が親の周りに少ない」という。

滝川中央保育所などで
園長を務めた保育士歴40
年のベテラン。昨年、セ
ンターの子育て支援コー
ディネーターに着任し

「完璧な子育てじゃな
くていいんだって背中を
押された気がする」。昨
年末に相談室を訪れた双
子の母親はほっとした表
情で帰っていった。情報
があふれるいま、経験の
ある「母さん」の言葉に
支えられているのかわし
れない。

(若林彩)

ち
そ
ら
目
誌

花月地域子育て支援センターで

「にこにこランチ」開催

2019.1.19 12:25 宮城

未就学児と保護者対象に

【滝川】滝川市子育て世代包括支援センターは、30日正午から「にこにこランチ」を花月地域子育て支援センターで開催する。おもちゃライブラリー終了後、センター内で昼食を食べることができる初の試み。午後からセ

ンターで遊ぶこともできる。参加は無料で、23日まで受け付け。今後は月1回程度の開催を計画している。

子育て支援センターでは、交流事業の「おもちゃライブラリー」、センター開放事業の「こすもす広場」を実施し、親子で遊ぶ機会を提供している。しかし、センター内で昼食をとることはできなかった。今回、先進地の千歳市の取り組みを参考に、昼食を食べながら親子で交流してもらおうと、「にこにこランチ」を初めて企画した。

「にこにこランチ」が開催される花月地域子育て支援センター



30日のおもちゃライブラリーは、全年齢対象で午後からはこすも

望者多数の場合は抽選が行われる。親子で味わう弁当の持参を。

市子育て応援課は「子育て支援事業の充実と新しい利用者の確保につなげたい。子育て世代の交流の機会として活用して欲しい」と話している。

また、「にこにこランチ」に参加してなくてもおもちゃライブラリー（午前10時～同11時半）、こすもす広場（午後1時～同4時）は利用できる。

次回は2月26日に予定している。

【丸岡宣久】

滝川市子育て応援課

親子で遊ぶ場提供

16日に初の土曜日開放

21.2.9 水曜日

【滝川】滝川市子育て応援課は、16日午前9時から土曜日開放「みんなあつまれ」を花月地域子育て支援センターで開催する。

土曜日に親子で遊ぶ場所を提供する初めての取り組みで、ゲームや大型絵本の読み聞かせなどを楽しめる。入場無料。

滝川市地域子育て支援センター事業として企画した土曜日開放。平日に仕事などで子育て支援センターに来ることができない保護者

にも利用してもらおうと企画した。対象は市内在住の就学前児童と保護者。

当日は午前9時から正午まで施設を開放。好きな時間に来て帰ることができる。スペースでは小麦粉粘土遊びや魚釣り、ボウリングなどのゲームのほか、エプロンシアターや大型絵本の読み聞かせも行つ。



にこにこランチ盛況

親子同士で交流

31.2.9 読者知

次回は2月26日に開催

【滝川】滝川市子育て世代包括支援センターが1月30日、花月地区子育て支援センターで昼食を食べることができた初めての「にこにこランチ」を同センターで実施した。零歳児から3歳児の子どもと保護者13組14人が参加し、お昼のひとときを楽しんだ。写真。次回は2月26日に予定している。

「子育て支援センター」が1月30日、花月地区子育て支援センターで「こすもす広場」を実施し、親子で遊ぶ機会を提供している。しかし、センター内では昼食をとることはできなかったため、今回初めてランチイベントを企画した。

参加した親子はお弁当を持参し、ほかの子どもたちとともにランチ。いつもと違うお昼ごはんは子どもたちも笑顔で味わい、食後も

センター内の遊具などで遊びを楽しんだ。市子育て世代包括支援センターは「母親同士の交流もあって良い雰囲気でした。参加し

た方からも好評で、これからも支援センターを楽しい場にしていきたい」と話していた。26日のにこにこランチも、市内在住の零歳児から就学前の児童と保護者を対象に実施。定員15組。

問い合わせ、申し込みなどは市子育て応援課（TEL0125・28・8025）へ。

【丸岡宣久】

市子育て支援課企画

土曜日を親子で楽しむ

3/1, 2, 23

【滝川】土曜日に親子で楽しいひとときを過ごしてもらう土曜日開放事業「みんなあつまれ」が16日、花月地域子育て支援センターで開かれた。滝川市子育て支援センター事業として初めて企画され、親子38人が来場して楽しいひとときを過

ごした。企画した滝川市子育て支援課は2019年5月から毎月1回実施する予定だ。平日に仕事で子育て支援センターに来ることができない保護者、特に父親に足を運んでもらおうと企画した。初の土曜日開放には

子ども、保護者が来場。中には父親の姿も。親子でのおもちゃ遊び、保育士によるエプロンシアターや絵本の読み聞かせ、親子ダンスを楽しんだ。写真。参加した家族からは「ふだんの子どもの様子を夫に見せることができて良かった」「土

曜日なら夫も参加できる」など好評だった。子育て支援課は、土曜日出勤の必要がある

ため職員の勤務体制を調整。5月から土曜日開放の毎月実施を目指す。【丸岡宣久】



保育所で除雪奉仕

ソロフチミ
スト滝川 滝西硬式野球部激励

31.2.9 2012

手で、何より若いみなさんの力をいただけてありがたいです」と部員たちを称えていた。

滝西Sクラブは24日にも中央保育所で除雪奉仕を予定している。

【丸岡宣久】



【滝川】国際ソロフチミスト滝川（樋郡真澄会長）は2日、二の坂保育所で除雪奉仕に汗を流す、滝川西高硬式野球部を激励した写真Ⅱ。

滝西硬式野球部は奉仕活動に取り組む滝西Sクラブの一員。国際ソロフチミスト滝川はSクラブのスポンサーとして活動を支援している。

今回、硬式野球部の部員32人が二の坂保育所を訪れ、避難経路を確保したほか、屋根や2階ベランダ、建物周辺の除雪活動を実施。樋郡会長と竹島光子スポンサーシップ委員長が清涼飲料水を差し入れし、激励した。

樋郡会長は「楽しみながら除雪作業に取り組んでくれます。スコップの使い方も上

ソロプチミスト滝川

奉仕活動に差し入れ

2/3/27 和歌山



たちの活動を支援している。

ことしもSクラブの生徒43人が参加し、保育所周辺や2階ベランダなどに積もった雪を取り除いた。また樋郡会長と竹島光子スポン

【滝川】滝川西高Sクラブが2月24日、滝川中央保育所で除雪ボランティアを実施した。クラブスポンサーの国際ソロプチミスト滝川の樋郡真澄会長らが奉仕活動に取り組む生徒たちへ差し入れを行い、激励した。写真Ⅱ。

滝川西高Sクラブは、硬式野球部とコミユニティサービス局の生徒で構成。国際ソロプチミスト滝川が生徒

サー委員長、川口紀美子広報委員長がパンや飲み物を差し入れし、激励した。

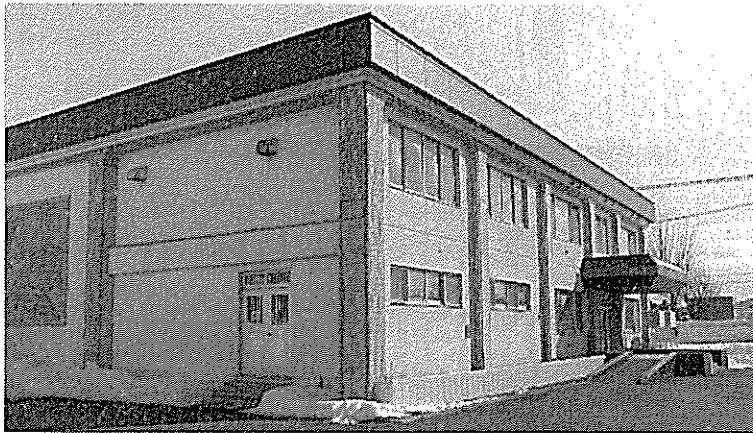
滝川で定員超え施設

需要高まる学童保育

岩見沢は施設増で対応 人材確保で課題も

【岩見沢、滝川】共働き世帯の増加により、小学生を対象とした学童保育の需要が高まっている。滝川市では全体の登録者数が前年を下回ったものの東地区児童センターで初めて登録者数が100人を超え、施設の手狭さや子どもたちを見守る人材確保が課題となっている。一方で2018年4月末で前の年を上回る1082人の登録者があった岩見沢市は、小学校区に複数のクラブを設けており、余裕を持って子どもたちの居場所を確保している。

学童保育は放課後や長期休業、学校の臨時休校日に保護者が働いている子どもが安全に過ごせる場所を提供する事業。共働き世帯の増加や2015年の児童福祉法の改正で高学年にも対象が広がったことを受け、登録者数は増加傾向にある。6小学校区ごとに1か所の「学童クラブ」を設置している滝川市。昨年2月末時点で過去最多となる359人の登録だったが、この時期は347人と微減した。施設別では106人が登録した東地区をはじめ、北地区（登録71人）、西地区（同51人）で定員超え。花月地区（同70人）も定員に達している。中地区（同28人）と江部地区（同21人）は定員を満たしておらず、今後も登録を受け付ける。東小の児童数増加とともに登録者も増える東地区は、施設の手狭さが課題に。利用児童を3グループに分け、児童室と図書室、体育館をローテーションで利用することで対応しており、新年度はラン



登録児童が100人超えの滝川東地区児童センター

ドセル置き場の増設も予定している。子どもたちを見守る厚生員の確保も課題。6カ所の学童クラブを含む11カ所の児童館施設

31.3.9 北星新聞

設を37人の嘱託・臨時職員、30人を超える代替スタッフで対応しているが、「あと3人は人材が欲しい」（子育て応援課という現状。「子どもたちの見守りを手厚くするためにも嘱託職員や臨時さん、代替職員さんを募集している」と訴える。

岩見沢市も学童保育の登録は増えているが、校区内の児童館や子ども館に加え、小学校も活用し、15年度に放課後児童クラブを15カ所から21カ所に増設したことから、施設面では余裕がある。小学校内や近い施設は低学年、少し離れた施設で高学年を受け入れ。最

も登録者が多い鉄北クラブでも実質的な利用率は73%にとどまっている。

市教委子ども課は「推計に基づき施設を整備した結果、利用は想定内。今後は新年度にニーズ調査をあらためて行い、現在の施設数や規模が妥当かどうか検討したい」と話す。また子どもたちを見守る支援員も退職した手を確保できていると、現行通りの運用を進める方針だ。